

# 楽踊楽座 全国行脚 記録

行脚 No.41

日時	2013年9月29日
行脚先	後藤又兵衛の墓
住所	大分県中津市耶馬溪（豊前国）
行事名	

## 特徴

「黒田二十四騎」「黒田八虎」「大坂城五人衆」に数えられる「後藤又兵衛（後藤基次）」の墓です。墓には「義刃智光居士」と書いてあり、碑文は「居士俗名を又兵衛と云う何処の人なるかを知らず。往昔この邑に寓居すること3年志氣に英で武徳俊高にして眼光人を射る。憶に諸侯丈夫に逆うての謫居するものか承応3年(1654年)正月29日夜剣刃にて自殺す時往き歳久しく石碑欠落す。よってここに里人古を慕いて新に石碑を建て冥福に資するものなり」とあります。後藤又兵衛とは明記されていませんが、徳川時代の世で幕府に遠慮してのことであったと考えられています。又兵衛の死後、村人が墓を建立しましたが、年月を経て欠壊し、現在残っている墓は宝暦13年(1763年)に伊福茂助が建て替えた物だそうです。

## 黒田官兵衛との関わり

戦国の武将後藤又兵衛は永禄3年(1560年)播州で生まれました。父基国は同じ播磨の国で、三木城主別所氏の家臣で誠実果敢の重将でしたが、又兵衛がまだ少年の頃若くして自刃しました。父の遺言により、同輩の「小寺官兵衛」(後の黒田官兵衛)に仕えて心身を鍛え、その心の豪胆さと剣槍の練術により名実共に天下に聞こえた勇将となりました。天正15年3月(1587年)豊臣秀吉の九州征伐の際、第一鋒の黒田官兵衛について南下し、黒田氏が中津に入封して国内の土豪を鎮定するとき、城井谷の剛将宇都宮鎮房を降伏させた功労が大きかったと言われていました。その後、黒田官兵衛、長政父子が筑前博多(福岡)へ入封すると、黒田二十四騎の猛将として1万6千石を与えられて大隈城主となりました。諸説ありますが、黒田長政とは確執があったと言われております。大阪の陣が起こると秀頼の招きに応じ入城、夏の陣では大和方面に出馬して戦功がありましたが、道明寺河原で討ち死にしたと伝えられています。しかし、大阪夏の陣で戦死した又兵衛は影武者であったという説もあります。大坂城落城の前に豊臣秀頼を護衛し、真田幸村と共に瀬戸内海から豊後国日出に上陸して、薩摩国の島津氏を頼りに落ち延びるという計画を実行していました。上陸後、秀頼一行との再会と豊臣家再興を誓い日田の地で別れた又兵衛は、かつて黒田氏が中津を領していた頃の知人である女性・お豊のいる伊福の里に向かいました。お豊や里の人々と平穏な日々を過ごしていましたが、やがて秀頼の病死を知った又兵衛は、豊臣家再興の夢が断たれた悲しみから、承応3年(1654年)1月29日、お豊の家で自刃しました。しばらく時間が過ぎて村人は、この自刃した武士が後藤又兵衛であったことを知り墓を立てました。その後、宝暦13年(1763年)に伊福茂助が墓の荒廃を見かねて建てかえたのが現在の姿です。

## 記録

